

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(1から5は、段落の番号を表します。)

1 皆さんは、「犬も歩けば棒にあたる」、「花より団子」、「良薬は口に苦し」といったことわざを聞いたことがありますか。これらは「いろはかるた」に取り上げられているものです。「いろはかるた」は、

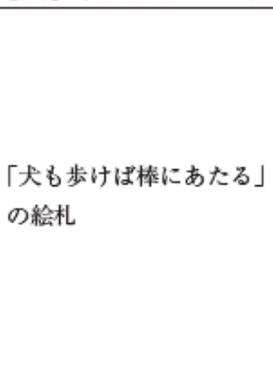
いろはにほへと ちりぬるを わかよたれそ つねならむ うゐのおくやま けふこえて あさきゆめみし ゑひもせす
 の四十七字に「京」の字を加えた四十八字を最初の字にしたことわざからできています。四十八のことわざを字札にしたものを読み、ことわざの意味などを表した絵札を取ります。

2 江戸時代から遊び道具の一つとして親しまれてきた「いろはかるた」ですが、一つ一つのことわざに着目してみると生活に役立つ知恵が多く含まれていることが分かります。近代の有名な作家である芥川龍之介も、私たちの生活に欠くことのできない思想は、「いろはかるた」に全て盛り込まれているのかもしれないといった内容を書き残しています。子どもにとっては少々難しいことわざでも、遊びを通して楽しみながら身近に感じたり学んだりすることができるのが「いろはかるた」のよさの一つだと言えます。

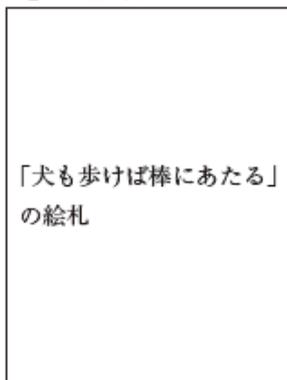
3 「いろはかるた」と一口に言っても、種類ではありません。例えば、同じ「い」で始まることわざでも、「犬も歩けば棒にあたる」、「石の上にも三年」、「一を聞いて十を知る」、「急がば回れ」など、時代や地域によって様々なものを取り上げられています。また、「犬も歩けば棒にあたる」は、生活や社会の状況によって異なる解釈が生まれています。それは、絵札を比較するとよく分かります。

4 ところで、皆さんはかるた遊びをしたことがありますか。お正月に家族で楽しむものの一つとして思い浮かべる人もいないでしょうか。「いろはかるた」で遊んだ経験はなくても、郷土をテーマにしたかるたや、漫画などのキャラクターが登場するか

【図】「犬も歩けば棒にあたる」の絵札



(左の絵札)
棒にあたってしまった犬の様子。



(右の絵札)
子どもからえさをもらえた犬の様子。

るたで遊んだことはありませんか。現在は、「郷土かるた」、「四字熟語かるた」など様々なものがあります。テーマや内容は違っていても、絵札と字札という形式で作られていることは共通しています。

5 現代のかるたが「いろはかるた」から受け継いだのは、形式だけではありません。例えば「郷土かるた」で遊ぶことを通して、私たちは生まれ故郷に伝わる昔からの風習や地域の特色などを学んだり、「環境かるた」で遊びながら環境への取り組みを知ったりすることが出来ます。そう考えると、「かるた」は形式とともに、その内容も含めて私たちの生活と密接に関わりながら生き続けていると言えます。

三 この文章を読んで「かるた」について分かったことの中から、興味をもったことについてさらに調べることにしました。次のア、イ、ウについて、それぞれの指示にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

ア この文章を読んで、「かるた」について分かったことを一つ書きなさい。

イ アについて、さらに調べたいことを一つ書きなさい。

ウ イを調べる手段を、次の①から③までの中から一つ選び(どの〈調べる手段〉を選んでもかまいません)、その手段を用いて(どのようにして情報を集めるのか)を二十字以上、五十字以内で書きなさい。

なお、「③ その他」を選んだ場合は、あなたの考える調べる手段を解答用紙の()に書きなさい。

〈調べる手段〉

- | | | |
|---------|-----------|-------|
| ① 学校図書館 | ② インターネット | ③ その他 |
|---------|-----------|-------|